

学園点描

9月24日の第2回学校運営協議会では、本校の子どもの良い点と課題点を出し合いました。

《H学園》

NO.13

R7. 9. 25

担当：校長

本校では、1年間を5つの節に分けて教育活動を進めています。第3節は「一人ひとりの能力を伸ばし、挑戦の機会を提供する」ことを柱としています。地区青少年読書感想文コンクールでは、9年K・Sさん、8年W・Rさんが佳作、9年K・Sさんが優良を受賞しました。地区英語弁論大会では9年K・Hさんが優良賞に輝きました。また、Y県こども絵画展覧会では、6年S・Hさん、9年H・Tさんが奨励賞、6年N・Aさん、7年S・Aさん、9年K・Kさん、M・Tさんが入選を果たしました

9月5日（金）には授業参観と学級保護者会を行いました。学級によってはサイコロトークで盛り上がっていました。教師も保護者も何気ない話をする機会がとても大切だと企画しています。

スクールツアー

9月11日（水）、Y県議会の文教公安委員会の議員の皆様、県教育関係者、そして警察代表の方々をあわせ総勢11名が、H学園に来校しました。目的は、義務教育学校に関する現地調査です。少子化の進行を受け、県内の多くの自治体で義務教育学校の設置を検討する動きが広がっていることが背景にあります。

まず私から学校の概要を説明し、その後はいよいよ校内見学です。教頭先生が先導して客人を案内するのが一般的ですが、本校では今年度から8年生の希望者がガイド役を務める「生徒



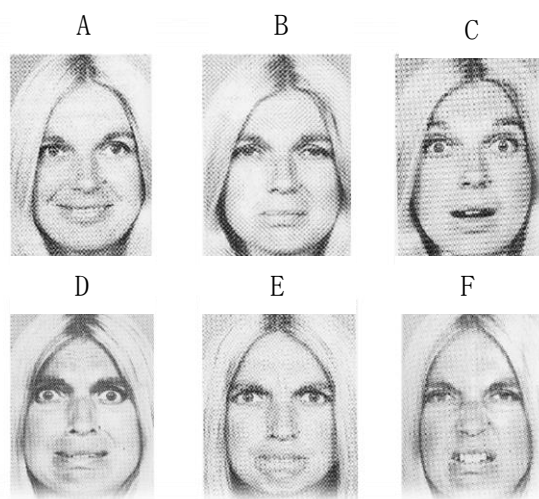
によるスクールツアー」を行っています。今回の視察団には、5人の生徒がそれぞれのグループを受け持ち、県議会議員の方々をご案内しました。

ガイド役を希望した生徒たちは12名です。この生徒たちには、給食の時間に校長室に来てもらいランチミーティング形式の心理学講座を受講してもらっています。校長でもあり公認心理師でもあるわたしが講師を務めます。講座内容は「コミュニケーション」「自己理解」「集団の心理」など、人とつながることの難しさを心の動きから明らかにします。

さて、1回目の講座はこんな内容でランチミーティングしました。

下の写真の6つの表情から、『驚き・恐怖・嫌悪・怒り・幸福・悲しみ』の、どの感情を抱いているか判断してみるというものです。

心理学では、言葉を使わず、表情やしぐさで気持ちを伝えることを『ノンバーバルコミュニケーション（非言語コミュニケーション）』といいます。表情や視線、声の調子、しぐさなど



によって、気持ちや考えが相手に伝わります。実は、相手に気持ちが伝わる割合は、言葉そのものよりも言葉以外の要素のほうが大きいのです。研究者は言葉で気持ちを伝えるのはわずか7%、残り93%は非言語だと発表しています。

現代のようにSNSでのやりとりが広がると、どうしても文字や言葉によるコミュニケーションの割合が増えていきます。その結果、表情やしぐさから

気持ちを感知取る機会が減り、人間関係のトラブルがこれまで以上に多くなりそうです。

講座に参加した生徒たちは、相手の感情を表情から読み取る大切さを学んでくれました。

ツアーを終えた県議会議員のお客様は、口々に「すごいなあ」「素晴らしい」と感嘆の声をもらしていました。感心したのは学校施設の充実ぶりではなく、生徒たちが自分の言葉で語り、自らの体験を交えながら案内する姿でした。校舎を歩いて自分の学校を説明するガイドたちの一生懸命な姿に、案内された大人たちは胸を打たれ、心温まる感動を覚えたようです。

子どもの力をあなどってははいけません。

きりとり

ご意見・ご感想をお願いします。

Shinyatk1616n@yahoo.co.jp